

## 1.長期成長ビジョン

企画から製造までの一貫体制によるフレキシブルな対応力に磨きをかけ、「低環境負荷包材需要への対応」「多品種少量化」「衛生面の強化」等多様化する顧客ニーズへ応えることで2031/3期に単体売上高196億円、コンソーシアム199.6億円企業への成長を目指す。

## 長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

### ■目指す姿・ビジネスモデル

#### 「お客様の品物とその価値を包み、安全・確実にお届けする」

- 生活必需品を事業ドメインとし、商品を保護し情報を伝える「一次包装」の提供を通じて人間生活の向上、社会の発展に貢献する
- 顧客第一主義の姿勢を貫き、企画、デザインから生産までの一貫体制によりフレキシブルな対応力を発揮し、環境変化に対応することで持続的な成長を目指す

### ■長期成長ビジョンの実現に向けた事業戦略

#### ①水性印刷対応により低環境負荷型パッケージへの切替需要獲得

- 役目を終えた包材はゴミへと変わるため、より環境負荷の少ない製造プロセスづくりを追求することを使命として取り組み、新たな市場需要も獲得する

#### ②工場統合および新型印刷機の導入による生産性改善

- 工場統合および最新印刷設備導入により、生産性向上および多品種少量化への対応力を高めることで収益力向上を図る

#### ③AGV導入により過酷労働を削減し、労働環境を改善

- AGV導入により重量物の運搬を削減し、かねてから取り組んでいる有機溶剤使用量削減と合わせて安全に働きやすい労働環境の整備に取り組む

#### ④安全・衛生管理面への取組強化

- 工場統合により安全・衛生面も強化し、FSSC22000認証の取得に取り組むことで食品メーカーからの信頼をより強固なものにする

### 会社全体の売上成長目標（基準年度～事業化報告3年目）

- 年平均売上高成長率単体16.9%、コンソーシアム17.1%
- 売上高増加額単体73億円、コンソーシアム75億円

### 会社全体の賃上げ目標

- 4.14%（直近事業年度～基準年度）
- 5.5%（基準年度～事業化報告3年目）

### 外発的動機

- 軟包装は硬質パッケージと比して環境負荷が低く、商品保護機能により食品ロス削減にも貢献することができるため、サステナビリティへの取組拡大を背景に採用が加速しており、世界の軟包装市場は2030年度までCAGR4.0%での成長が見込まれる
- 当社の手掛ける1次包装は主に加工食品に用いられるが、女性の社会進出等のライフスタイルの変化による食の時短・簡便化ニーズを背景に加工食品市場は今後も成長が見込まれる
- 当社顧客である食品メーカーは環境対応を強化しており、環境負荷の高い油性塗料を用いた包装の不使用に向けた取組が大手メーカーを中心に拡大しており、環境対応パッケージへの切り替え需要の発生が見込まれる
- 商品の「顔」としてのパッケージに対する要求水準の高まり、ライフサイクルの短期化による包装の多品種少量化も進展しており、規模の経済が働きにくくなっている
- 生産年齢人口が減少する中で持続的な成長を実現するためには、印刷業の生産現場の3K(きつい、きたない、きけん)のイメージを払拭し、女性やシニア人材も安全に働きやすい環境整備を行うことが求められる

### 内発的動機

- 企画、デザインから生産までの一貫体制によるフレキシブルな対応力を強みに顧客ニーズに寄り添い、90年にわたって「一次包装」を通じて「商品の保護」「商品情報の伝達」といった付加価値を提供してきた
- 持続的成長を実現するためには、衛生管理面の強化、多品種小ロット対応、環境負荷低減等、高度化する顧客ニーズに対応する必要がある
- 現工場は工場建屋・空調設備の老朽化による労働環境の悪化、新規設備導入に向けたスペースの不足、既存印刷設備の能力不足等競争力を維持し、成長する市場の需要を獲得するためには工場の更新が急務である
- 社内従業員の平均年齢の上昇により、次世代の技術者育成に向けたノウハウの継承が課題となっている

## 2.補助事業の概要

既存工場を統合し、低環境負荷型の高性能印刷設備導入と衛生面強化により競争力を高める。  
AGV導入および有機溶剤使用量の削減により労働環境改善を実現する。

## 補助事業の背景・目的

点在する既存工場を新工場へ統合し、設備増強を行うことで、高まる環境負荷軽減需要の獲得、衛生面強化による信頼獲得を図る。生産性改善と労働環境改善にも取り組むことで、持続的な成長を実現する。

事業費  
(補助額)

46億円  
(15億円)

## 設備投資の内容

## 【新工場への集約/設備増強】

- 1.「環境需要獲得」  
水性印刷対応による低環境負荷型  
パッケージへの切替需要獲得



## 2.「工場統合による生産性改善」

- 同一建屋内への工程集約と最新  
製造設備導入による生産性改善  
及び多品種小ロットへの対応強化



## 3.「労働環境改善」

- AGV導入による過酷労働削  
減と水性印刷（有機溶剤レ  
ス）による労働環境改善



## 4.「工場統合による衛生面強化」

- 同一建屋内への工程集約による衛  
生面強化とFSSC22000の取得



## 投資会社

## 内容

## 投資額

K I D O P A C K A G I N G 株式会社

生産設備14種（18台）

11.5億円

K I D O ホールディングス株式会社

工場建設にかかる費用

40.7億円

## 目標値

	K I D O P A C K A G I N G 株式会社		K I D O ホールディングス株式会社	
項目	2028年3月期（基準年度）	2031年3月期 (基準年度+3年後)	2028年3月期（基準年度）	2031年3月期 (基準年度+3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	1,154万円	1,891万円 (年平均上昇率+17.9%)	7,500万円	14,400万円 (年平均上昇率+24.3%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	605万円	711万円 (年平均上昇率+5.5%)	605万円	711万円 (年平均上昇率+5.5%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	(年平均上昇率+5.5%)	-	(年平均上昇率+5.5%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	230人	239人	1人	1人